

環境マネジメント

環境マネジメント体制

エクセディでは、全社環境担当責任者を委員長とするEGC委員会（EGC:EXEDY Global Clean）を中心にマネジメント体制を構築し、全社環境方針の策定や活動状況の管理を実施しています。



JQA-EM0901

2009年度実績と2010年度目標

項目	2009年度		2010年度
	計画	実績	目標
省エネ活動 ・1990年度比CO ₂ 排出量7%減 ・原単位※120%減 (2008年～2012年度5年間平均値で評価)	原単位※1 :42.9トン-CO ₂ /億円	原単位:前年度比1.4%減 (43.4⇒42.8トン-CO ₂ /億円)	原単位 :42.5トン-CO ₂ /億円
	排出量:45.5千トン-CO ₂	排出量:前年度比6.0%減 (39.9⇒37.5千トン-CO ₂)	排出量:41.1千トン-CO ₂
3R※2の推進 「新ゼロエミッション」達成	前年度比原単位5%減 (0.62トン/億円)	原単位:前年度比11%減 (0.64⇒0.57トン/億円)	原単位:前年度比3%減 産廃排出量:0.55トン/億円
	リサイクル率:95%	リサイクル率:83%	リサイクル率:95%
環境負荷物質の削減・廃止及び管理	PRTR法※3に基づく管理	行政及び部工会※4へ報告	PRTR法に基づく管理
車両の燃費向上に貢献する製品開発	高効率化T/C※5の量産化 新製品の实用化性能・耐久性評価の完了	'08/10月本格的量産納入開始 試作評価結果、構造変更、機種追加して開発継続	— 2次試作の評価と量産移行・受注の獲得
環境負荷物質の削減 (有害物質の全廃)	建設産業車両用主要補修部品の6価クロム・鉛廃止	鉛含有ゴムシール部品廃止完了、6価クロム順次廃止継続中	補修部品の6価クロム・鉛廃止推進の継続

※1 原単位:CO₂排出量/売上高 ※2 3R:リデュース・リユース・リサイクル ※3 PRTR法:化学物質の排出・移動量届出制度 ※4 部工会:日本自動車部品工業会 ※5 T/C:トルクコンバータ

環境会計 ～環境活動への費用・投資～

環境に対する取り組みを効果的に推進していくために、環境保全コストとその活動により得られた環境保全効果と経済効果を表しています。

2009年度環境保全コスト

(単位:百万円)

事業エリア内	コスト項目	投資額	費用額	主な取り組み内容
事業エリア内	公害防止	17	42	土間改修工事、油水分離槽設置
	地球環境保全	2	5	工場屋根明かり取り設置、埋設配管の地上化
	資源循環	18	73	廃棄物処理・リサイクル処理
	管理活動	0	24	環境月間イベント、ISO更新審査
	研究活動	0	75	低燃費化製品・再資源化材料の開発、軽量化
	社会活動	0	22	事業所内の緑化、地域との交流
	環境損害対応	0	2	土壌浄化
	合計	41	238	
	総計		279	

環境保全に伴う経済効果と物量効果

<経済効果>

(単位:百万円)

効果項目	2007年度	2008年度	2009年度
CO ₂ 削減	22	51	17
廃棄物処理費用の低減	37	0	41
有価物の売却	951	865	582
合計	1,010	916	640

<物量効果>

効果項目	2007年度	2008年度	2009年度
産業廃棄物排出量※6	657トン	590トン	500トン
CO ₂ 排出量	46.0千トン-CO ₂	39.9千トン-CO ₂	37.5千トン-CO ₂

※6 産業廃棄物排出量は、リサイクル分除く

環境監査 (ISO14001)

部門自主監査(部門責任者による自己診断)、定期内部監査、外部機関による審査の3段階による監査及び審査を実施しています。

ISO14001更新審査

2009年4月21日～24日の4日間にわたり、ISO14001更新審査が行われました。今回の審査では幅広いCO₂削減活動や環境を意識した保育園の設立(2008年10月)などが高く評価されました。

今回指摘を受けた項目については、各部門へ水平展開し、さらなるシステムの改善を進めます。

<<審査及び監査結果>>

年度	重大な不適合	軽微な不適合	改善の機会	
2009	更新審査	0件	1件	25件
	内部環境監査	5件	6件	41件